

ぼくは、四つ葉のクローバーをみつけるのが、小さいころから大好きでした。ぼくの家の近くに大きな広場があったので、たくさんがしました。しかしその広場が最近、ある会社の駐車場になりました。

ある日のことです。弟たちが、「野ウサギがいたよ!」と帰ってきました。車の前に飛び出してきて、うらの山にかけて行つたそうです。ぼくも三年前ぐらに、野ウサギを見たことがあります。家の近くの山の中に、巣のような穴を作つて、ウサギがたくさん住んでいました。でもその後開発され、さら地になつていて、きっとウサギは、今はそこに住めなくなつたのだなと思ひます。

ぼくが住んでいる所は、自然がたくさんあります。だから、小さいころから自然の中で遊ぶのがあたりまえだと思つてしました。でもその自然が、少しずつ減つていて、とても悲しいです。自然を守るために、ぼくたちに出来ることはないのでしょうか。

ぼくに今出来ることは、「考える」とだと思います。クローバーやウサギを守るために今すぐぼくが工事を止めることはできません。工事が進んで、ぼくが便利に暮らせるこゝも事実です。人間が便利さを求めるがゆうやつて自然と共に生きていくかを、ぼくたちが考えながら大人になることが大切だと思うのです。そして、ぼくたちの生活には自然が絶対に必要で、それを人間が簡単にわにしてしまつてはいけないのだという意識を持つて、実際に行動できる大人になりたいです。

ぼくが見つけた四つ葉のクローバーや、ぼくが見た野ウサギたちを、ぼくたちの子どもたちにも見せてあげられる未来を作ることが、ぼくにできる大切なことだと思います。

ぼくは今、平泳ぎ25mを45秒以内で、3・5km泳ぎ続けられるよう、特訓しています。それが那珂川遠泳大会の参加資格なんです。全長約150kmある那珂川は、毎日登下校のときに渡っているなじみ深い川です。去年の夏休みの自由研究では、「この那珂川の河口から上流まで約30kmを自転車でたどりました。途中にいくつもヤナが作られていて、次々とアユが上がっていました。初めてアユを手づかみしたら、バネのように跳ね、命の力強さにびっくりしました。地元のお店で、那珂川でどれたアユや川エビのからあげを食べたら、ものすごくおいしくて、またびっくりでした。

上流に行くと水が澄んでいて、川底の石一つがよく見えました。川原の石をどかして素揚げにして食べたり、自然のままみが口中に広がり、とてもおいしかったです。

水質も調べました。上流でも「汚れが少ない」という結果でした。ぼくの町の水道水は那珂川の水を使っています。那珂川が汚れてしまつたら、ぼくたちは今までの快適な生活ができなくなつてしまします。また、豊かな自然も失われてしまします。この水源を守るために、ぼくは歯みがきや手洗いの時に水をくみ置きしたり、食事の後に皿に付いた油などはふきとるようにしています。こうしていきこどにつながります。そして何より、那珂川のよさを知り、大切にしようと思う人が一人でも増えることが、環境保全につながると思うのです。

今年の夏に行われる那珂川遠泳大会では、魚と一緒に川を泳いで、那珂川のすばらしさを体感したいです。そしてそれを自由研究にまとめて発信していくと思っています。



令和元年 南三陸探検

茨城大学教育学部附属小学校 五年
齋藤 悠一郎

かけがえのない那珂川

ぼくは今、平泳ぎ25mを45秒以内で、3・5km泳ぎ続けられるよう、特訓しています。それが那珂川遠泳大会の参加資格なんです。全長約150kmある那珂川は、毎日登下校のときに渡っているなじみ深い川です。去年の夏休みの自由研究では、「この那珂川の河口から上流まで約30kmを自転車でたどりました。途中にいくつもヤナが作られていて、次々とアユが上がっていました。初めてアユを手づかみしたら、バネのように跳ね、命の力強さにびっくりしました。地元のお店で、那珂川でどれたアユや川エビのからあげを食べたら、ものすごくおいしくて、またびっくりでした。

上流に行くと水が澄んでいて、川底の石一つがよく見えました。川原の石をどかして素揚げにして食べたり、自然のままみが口中に広がり、とてもおいしかったです。

水質も調べました。上流でも「汚れが少ない」という結果でした。ぼくの町の水道水は那珂川の水を使っています。那珂川が汚れてしまつたら、ぼくたちは今までの快適な生活ができなくなつてしまします。また、豊かな自然も失われてしまします。この水源を守るために、ぼくは歯みがきや手洗いの時に水をくみ置きしたり、食事の後に皿に付いた油などはふきとるようにしています。こうしていきこどにつながります。そして何より、那珂川のよさを知り、大切にしようと思う人が一人でも増えることが、環境保全につながると思うのです。

今年の夏に行われる那珂川遠泳大会では、魚と一緒に川を泳いで、那珂川のすばらしさを体感したいです。そしてそれを自由研究にまとめて発信していくと思っています。

◆この作文&体験記録集は、カスミのホームページでもご覧いただけます。
<http://www.kasumi.co.jp/>

栄小五年 飯田陽路

2019年7月23日(火)~26日(金)

南三陸旅行記

グルメ

甘えびに感動!

おさしみは、大好きでしたが、甘えびは、食べたことがありますでした。でも、夕食で食べた甘えびが、とろけてびっくり! あの食感がわかれられません。

ついた魚を煮てくれて.....おいしい!

2日目にみんなでつりをしました。ついた魚を宿の人達が煮てくれました。信じられないほどおいしいかったです。

みんなで作った等作りカレー

キャンプの夜、みんなで夕食を作りました。初のカレー作りでしたが、みんなで協力することでできたのです。すごくおいしかったです。

いろいろな人に感謝

行くときは、不安で、あまり楽しみではありませんでした。でも、新幹線で、みんなが楽しそうに話しかけてくれるので、ぼくも楽しくなりました。それからは、不安になることは一度もありませんでした。大人の人たちは話しかけやすく、友だちみんなは、よく仲良くなろうとしてくれて、けんかのない3泊4日になって良かったです。この3泊4日で、勇気を出すと、今まで知らないことを知りました。送り出してくれた体験ができることを知りました。送り出してくれた家族、助けてくれたまわりの人、みんなに感謝しています。ありがとうございました。

海の物語

この岩のわれ目には、伝説があります。昔、この岩の近くに、仲の良い国と国がありました。ある日、くらいかん、海からやって、どちらの国のかほりが、たぬじょう、こちらの国に入りました。3日目の夜、かわなりが落ち、岩がやがました。人々は、神様からのおひじりだと思ひ、岩がやが目を国境にすることになりました。くじらは仲良く半分に分けました。

